

「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」ロジックモデル

(R5年度要求額:1,422百万円)

現状

・デジタル化や脱炭素化、コロナ禍における社会変化の中で、社会人が必要なスキルを新たに身に付け、人材不足が見込まれる成長分野への労働移動やキャリアアップをできるよう支援することが必要となっている。

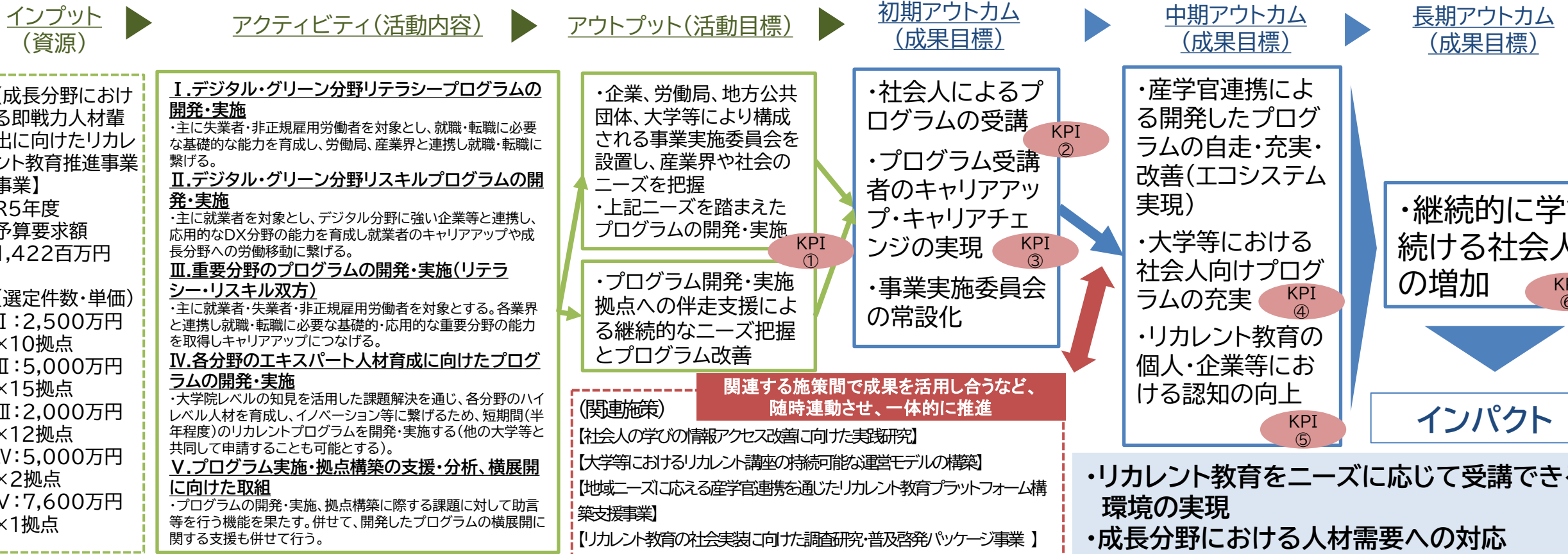
課題

・企業による人材育成のための大学等の活用は極めて少ない状況。デジタル・グリーン分野等成長分野をはじめとした産業界や社会のニーズを満たすリカレントプログラムが不足している上に、有用だと認知されていない。社会人に学び直しのメリットが伝わっておらず、キャリアアップや成長分野への労働移動をするための環境が十分ではない。

本事業の目的

・大学等において基礎、応用、エキスパートなど多様なレベルや分野に応じて、産業界等と連携したプログラムの開発・実施・横展開を行い、成長分野を中心としたニーズを満たすリカレント教育システムを構築することで、社会人のキャリアアップや成長分野への労働移動を後押しする。

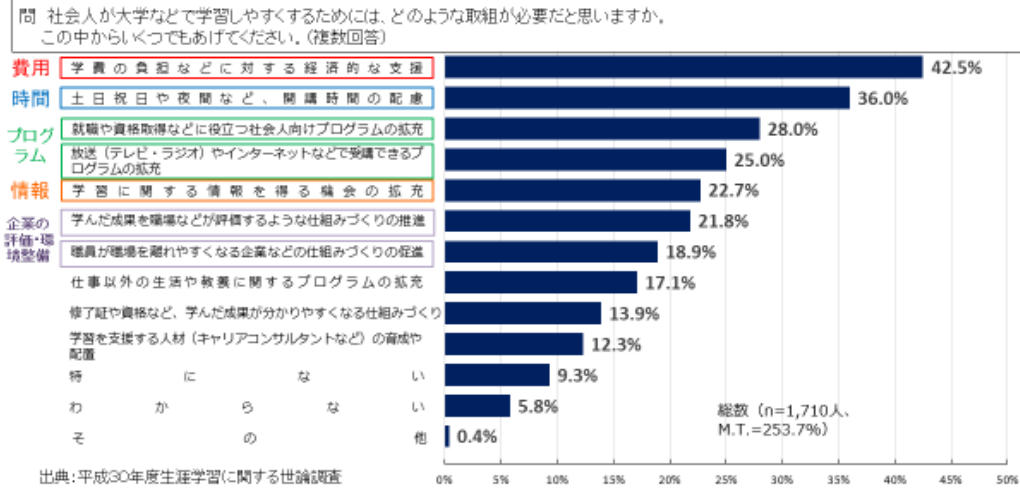
(現状・課題を示すデータ)※別添参考資料も参照
 ・「IT人材需給に関する調査」(2019年3月) 2030年のIT人材の需要と供給の差(需給ギャップ):44.9万人
 ・「労働力調査(基本集計)」(2022年(令和4年)6月分結果) 完全失業者数:186万人
 ・「新型コロナウイルス感染症に起因する雇用への影響に関する情報について」(令和4年8月12日現在) 解雇等見込み労働者数:約13万人



社会人が大学等で学習するための課題（世論調査＊18歳以上の国民が対象）

社会人が大学などで学習しやすくするために必要な取組としては、
①費用の支援、②時間の配慮、③仕事に役立つプログラムの拡充、④情報を得る機会の拡充、⑤企業の評価・環境整備が上位。

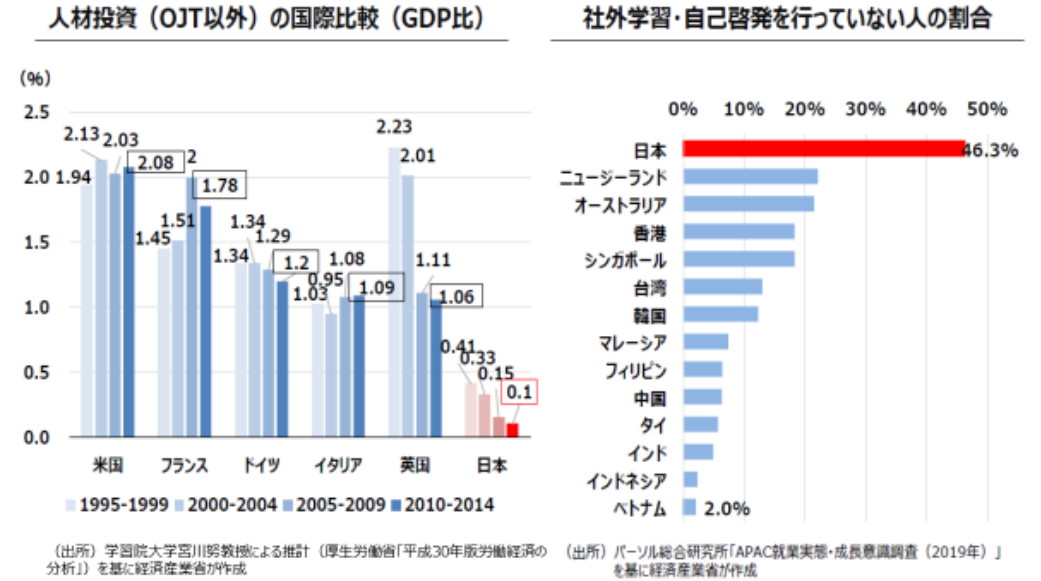
○ 学びやすくするための取組



企業は学ぶ機会を与えず、個人も学ばない傾向が強い

（出所）第4回 教育未来創造会議 ワーキング・グループ 配布資料より。

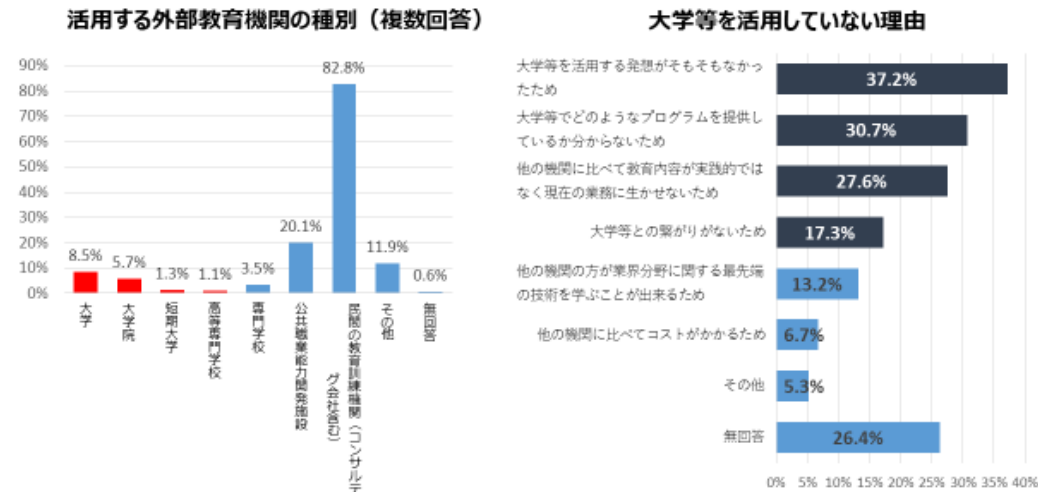
- 日本企業のOJT以外の人材投資（GDP比）は、諸外国と比較して最も低く、低下傾向。
- 社外学習・自己啓発を行っていない個人の割合は半数近くで、諸外国と比較しても不十分。



人材育成に大学等を活用する企業は少ない

（出所）第4回 教育未来創造会議 ワーキング・グループ 配布資料より。

- 8割を超える企業が民間の教育訓練機関を活用する一方で、大学等を利用する企業は少ない。
- 大学等を活用していない理由として、「活用する発想がなかった」「どのようなプログラムを提供しているかわからない」「教育内容が実践的でない」などの回答。



「経済財政運営と改革の基本方針2022（骨太の方針）」（令和4年6月7日閣議決定）

- ・社会全体で学び直し（リカレント教育）を促進するための環境を整備する。学び直しによる成果の可視化と適切な評価、学び直し成果を活用したキャリアアップや兼業・副業の促進、学ぶ意欲がある人への支援の充実や環境整備、成長分野のニーズに応じたプログラムの開発支援や学び直しの産学官の対話、企業におけるリカレント教育による人材育成の強化等の取組を進める。

「教育未来創造会議（第1次提言）」（令和4年5月10日）

- ・デジタル・グリーン等成長分野やスタートアップ、新規事業創出等新たな価値を創造する人材の育成に関するプログラムの開発を支援する。大学・専門学校等が地方公共団体や企業等と連携してDX等成長分野に関してリテラシーレベルの能力取得・リスクリングを実施するプログラムを支援する。

「デジタル田園都市国家構想基本方針」（令和4年6月7日閣議決定）

- ・リカレント教育としても、大学・専門学校等が労働局、企業等産業界と連携する体制を構築し、**就業者・失業者・非正規雇用労働者に対するデジタル分野等成長分野を中心とした教育プログラムを提供する。**具体的には、失業者や非正規雇用労働者を対象としたプログラムによって、基礎的なデジタル分野の能力を育成し、就職・転職につなげる。また、就業者を対象としたプログラムでは、キャリアアップにつながるよう、リスクリングを推進し、応用基礎的なデジタル分野の能力の育成を進める。

「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（令和4年6月7日閣議決定）

- ・成長分野への円滑な労働移動を進め、労働生産性を向上させ、更に賃金を上げていくためにも、個々の企業内だけでなく、国全体の規模で官民が連携して、**働き手のスキルアップや人材育成策の拡充を図ることが重要**である。その際、デジタル人材に加え、働く世代全体のデジタルスキルの底上げを図ることにウェイトを置く。